

西口（高島小）遺跡 発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会

日時：平成 29 年 12 月 16 日（土）

場所：高島小学校内

1. はじめに

岡山市教育委員会では現在、市立高島小学校の校舎建築工事に伴い発掘調査を実施しています。調査も終盤にさしかかり、これまで発見された遺構や遺物を公開いたします。

2. 周辺遺跡の様相について

同校の周囲には、備前国の中心であった備前国府が存在していたと考えられており、かつて行われた隣接地の発掘調査で備前国府関連の遺構や遺物が出土しています。また、周辺に分布する各遺跡の調査成果からは、奈良時代前後の地域の歴史に関して資料の蓄積が増えてきています。



図 1 調査区の位置と周辺遺跡の立地

○ハガ遺跡

小学校から南東約 150m の位置にある遺跡です。奈良時代 (8 世紀) に入り、正方位の外廓と内郭に囲まれた区画があらわれ、三彩陶器や羊頭硯など貴重な遺物が出土しています。また、瓦塔や泥塔、灯明皿といった遺物の存在が示すように、寺院的な性格が考えられる国府関連の遺跡となっています。

○中井・南三反田遺跡

小学校より南約 200m 離れた地点では、過去に警察官舎建設に伴う調査が実施されています。5 世紀代の古墳群が確認され、一辺 (径) が 13m 前後の円墳や方墳が築造されています。またその後の大規模な削平と造成によって、古代の末に水田域となったことも明らかになっています。

○南古市場遺跡

西に約 150m、現在の高島公民館の建設に伴う調査では、古代の河道が検出されています。河からは中国からの輸入陶磁器である青磁や、国内で焼かれ希少性のある緑釉陶器・灰釉陶器が出土している他、大量の土器類が見つかっており、国府とのつながりが強い遺物の出土状況です。

○北口遺跡

北東に 250m の地点の調査においては、弥生時代以降の遺構や遺物が発見されています。注目すべきは、飛鳥時代 (7 世紀前半) の土師器生産や鉄生産が行われていたことが判明しており、国府成立以前の集落遺跡における手工業生産のあり方を知ることができます。

3. 西口遺跡の調査の概要

① 調査区の主に西側では北東―南西の方向に細長い溝が複数条、平行して掘られています。これらは耕作に関係する遺構と捉えられ、利水 (排水・取水) の機能を果たしていたと考えられます。

② 一方、東側部分では調査区外に向けて微高地の落ちが確認でき、さらにその際においては、土師器や須恵器の他、鉄の生産に係る遺物が散らばった状態で出土しています。それらの遺物の年代は、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての時期 (6 ~ 7 世紀) を示しており、当時、西口遺跡では大規模な耕作地の開発が行われたものと理解できます。

③ 西口遺跡の耕作に関わる遺構は、微高地の地形に対応させながら、調査区のほぼ全体に計画的に広がっていることが特徴的です。こうした動きは、ハガ遺跡で奈良時代 (8 世紀) の遺構群が形成される前夜にみられます。

④ 加えて、遺跡内では製鉄や鍛冶遺構は直に検出されていませんでしたが、上記の鉄器に関わる遺物の内容から検討すると、隣接地で飛鳥時代 (7 世紀) 段階の鉄生産の可能性を考えることができます。

⑤ 古墳時代後期から飛鳥時代にかけてみとめられる耕地開発や手工業生産の展開は、歴史学的な視点からみた場合、各地への屯倉の設置といった事象と関連をもってきます。以上のような動向を踏まえ、律令体制を表出する「国府」が次段階に成立したものとみられます。

図の引用等

図 3: 桑田俊明 1994 『中井・南三反田遺跡 (備前国府推定地)』岡山県教育委員会

図 4: 草原孝典 2004 『ハガ遺跡』岡山市教育委員会

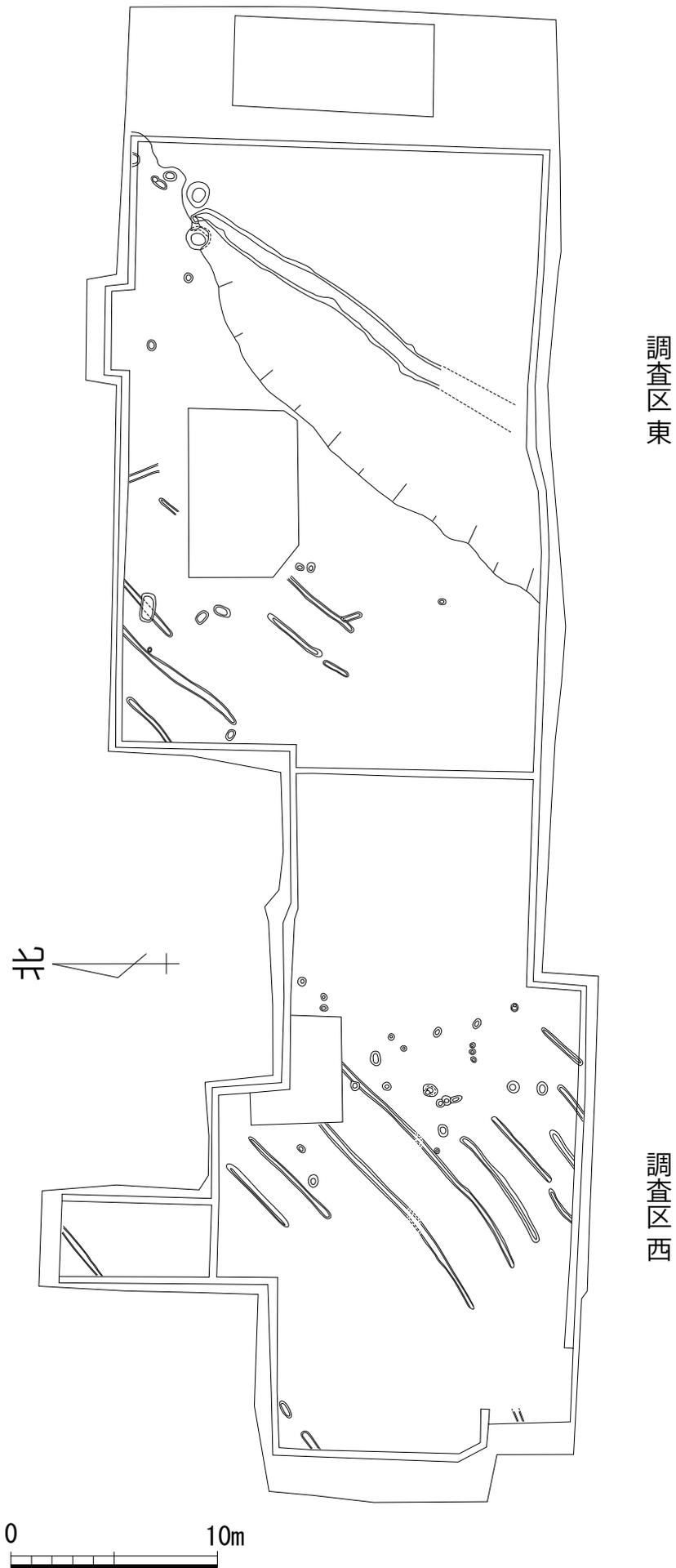


図2 西口遺跡
調査区全体図

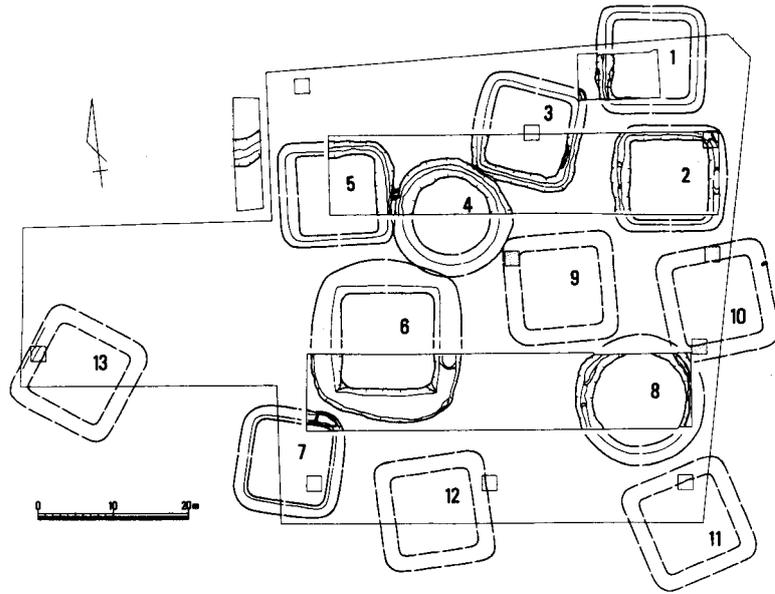


図3 中井・南三反田遺跡における古墳群

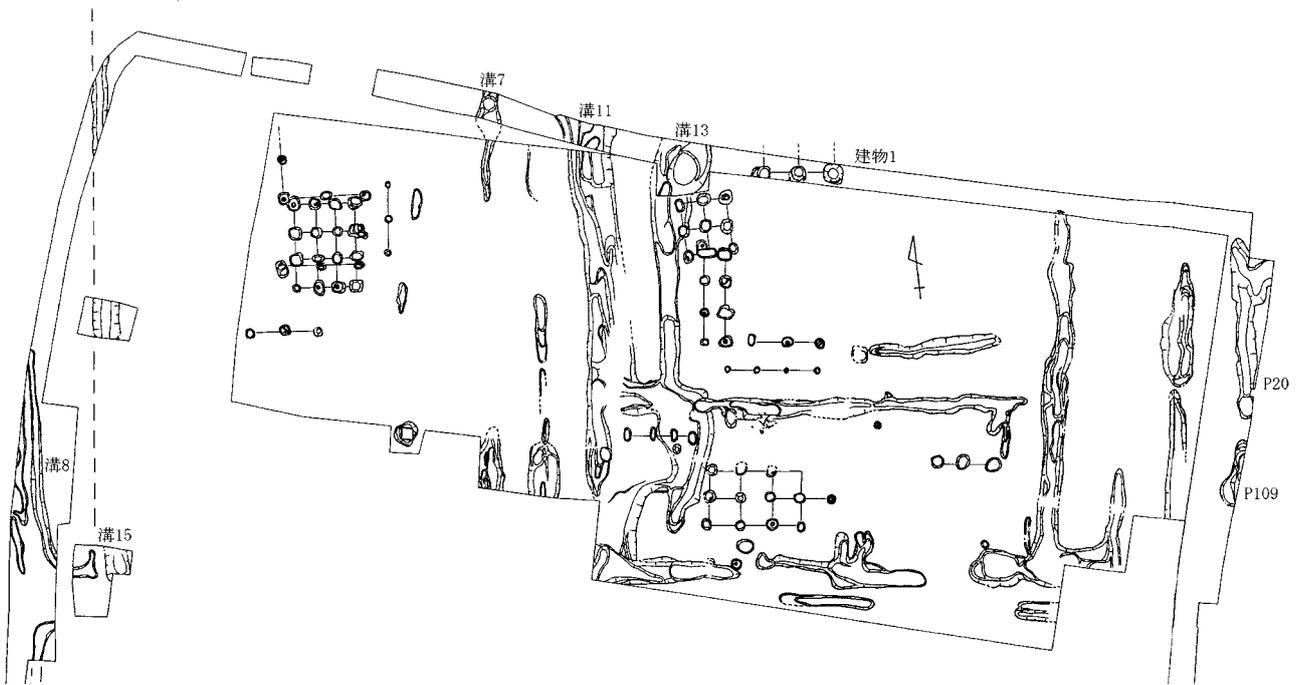


図4 ハガ遺跡 古代遺構配置図

西暦	100	500					1000					1500						
	1世紀	2C	3C	4C	5世紀	6C	7C	8C	9C	10世紀	11C	12C	13C	14C	15世紀	16C	17C	18C
	弥生時代			古墳時代					飛鳥時代	奈良時代		平安時代			鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代

略年表